
ゆで卵と僕

sur

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆで卵と僕

【Nコード】

N9183H

【作者名】

sur

【あらすじ】

食べるという行為。僕らは日常的にその行為を繰り返していく。特に意識もせずに当たり前に。何かを食えるということ。その時間だけを切り取って描かれた世界。たった数分間のお話。そこには、人間のあらゆる思考、快感、出会い、感覚が詰め込まれている。

冷蔵庫からゆで卵を取り出して、テーブルへと向かう。いつものようにクッション部分が所々剥げて不格好になっている椅子にゆつくりとした動作で座り、ゆで卵を皿の上に載せて不器用な手つきで殻をむいていく。

何故こいつは殻の中に閉じこもっているのだろう。この殻の中にはいったい何が身を潜めているのだろう。僕は説明しようのない興奮に包まれた。高ぶった感情の中、それでもなんとかゆで卵の殻をゆつくりとゆつくりと、中身を傷つけないように気をつけながらも慎重に剥いていく。その不器用さゆえに時々中身を傷つけてしまうこともあれど、何とか僕はゆで卵の殻をむき終えた。

むき終えた卵は光を浴び艶やかで。真つ白な姿のまま彼は初めてこの世界の空気にさらされた。彼はどんな気持ちだったろう。殻を剥かれてこの世界と肌を触れ合わせて。それは、とても恥ずかしかったのかもしれない。いきなり殻をむかれ、世界へ放り出され。それはとても怖かったのかもしれない。もしかしたら、殻を剥かれ飛び出した世界は、意外にもキラキラしていて言葉で表せないくらいに感動していたのかもしれない。

僕は姿勢を正し、上官にに睨まれた軍人のごとく、背筋をぴんつと伸ばし。目の前の彼に向かってしっかりと手を合わせる。

ーいただきますー

緊張をありのままに含んだその声は、静かな部屋の片隅に居場所を創る名前も無い生物の器官にまで響き渡り、僕の耳の中で音の波を作り思考の海に溶けこんでいった。

一口目、楕円形の先端部分を口に含む。僕の内部へと切り取られたゆで卵。残された彼の中には、ほんの少し黄身が見えた。

口の中の固形物、8割の白身部分と2割の黄身部分が何度も何度も噛み砕かれ、混ざり合い、溶かされて味わいを広めていく。

僕は切り取られた彼の一部分を飲み込み、咀嚼しながら殻を剥かれた彼のことを知っていく。

ーおいしいー

正直に言おう。僕は彼のことは嫌いではない。むしろ好きという感情の方が強いかもしれない。

その思いが体中をめぐったその瞬間、ゆで卵を媒体とした彼はこの世界に受け入れられた。

恐らく何かが他に受け入れられるということは、食という行為の中の、人間と食べ物との関係に似ていると思う。食というものは正直だ。そして食は全てのものの根源であると僕は考える。本能が指示を出し、体は欲求を満たそうと食材へと触れ、飲み込んで自分の中へと取り込んでみる。あるいは、その行為の途中で嫌悪感を示し吐き出されてしまうかもしれない。それでも食される側は、興味を持たれ、様々な方法で姿を変えたり、手間をかけてもらったり、失敗を繰り返したりして食されるのだし、その手間は食す側が行うのが常である。

これは僕ら人間同士が毎日出会い、お互いの言葉、行為、感情を放ったり飲み込んだりしてそれぞれがコミュニケーションしていく行為に似ている。

そう、例えば僕と君が手を触れ合って、友達になることも同じ。それは結局は、根本的な部分でゆで卵と僕の関係なのだ。

（後書き）

友達からお題をいただいて書いた【ゆで卵と僕】という作品。いかがでしたか。

とてもシユールな作品になっております。まだまだ文章や構成が稚拙だったり無理をしていたりするところもあるかもしれませんが、変態的な勢いを感じてくださった方がいれば作者冥利に尽きると思います。

短編などは毎日書いていきたいと思しますので、興味を持っていたいた方がいれば、また見にいらしてください。

s u rでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9183h/>

ゆで卵と僕

2010年12月3日14時07分発行